

Marine Turtler

マリンタートル

特定非営利活動法人日本ウミガメ協議会機関誌

第11号



表紙の絵



兵庫県にお住まいの務川めぐみさんが描いてくださいました。務川さんは2月に神戸で行われたリバイブうみがめ戦略会議に参加いただきました。よければ事務所に飾って下さいと今回の絵を送ってくださいました。カラーでご紹介できないのが残念ですが、実際は色彩豊かな木版画で、事務所のメンバーの目にしかとまらないのは勿体ないと、今回表紙に使わせていただきました。素敵な絵をありがとうございました。

他にも当会に寄せられた素敵な絵をご紹介します。



「悲しき帰郷」大越良二さんより
絵ががきでいただきました。



「熊本県にお住まいの
東和音さんよりいただきました。



会員の亀太郎さんより、たくさん
のイラストをいただきました。

表紙の絵を募集しています。

引き続き、皆様から表紙の絵を大募集しています。可愛いイラスト、リアルなウミガメ、ウミガメをモチーフにしたデザイン等々、ウミガメに関するものでしたらどんなもので構いません。ウミガメを見る機会のある方や、日頃から深くウミガメに関わりのある方は、ぜひ一度騙されたと思って描いてみてください。皆様からの素敵な絵をお待ちしております。

- サイズ：B5
- 色：自由。（仕上がりはモノクロになります。）
- 期限：×切はありませんが、次号の掲載をご希望の方は、2月末までをお願いします。
- 応募方法：大阪事務局に郵送又はメールでお送り下さい。
- 送付先：〒573-0163 大阪府枚方市長尾元町5-17-18-302
日本ウミガメ協議会 マリントートル編集部
※メールの場合は info@umigame.org まで
件名に「マリントートル表紙」と入れてお送り下さい。

会報の名称マリン・タートル（Marine Turtler）は、英和辞書には載っていません。つまり、教育的にはあまり相応しい英語とは言えません。ただし、米国では、最近ウミガメ関係者をこう呼ぶことがあります。ウミガメを守りたい人や、ウミガメを研究したい人、立場上仕事でウミガメに関わるようになった人、ウミガメが好きの人など、ウミガメに関わる全ての人を、我々はマリン・タートルと呼ぶことを提唱したいと思います。

Marine
Turtler

Contents

ウミガメ基礎講座 10

「ウミガメの分類」 松沢慶将 3

マリンタートラー列伝

「吹上浜で卵を保護した二人」 亀崎直樹 . . . 4

たまには真面目な話を . . .

「竜宮城」 渡放話（またの名を溝渕幸三） . . 5

インターンシップを終えて

詫間峻一 6

スミソニアン協会 国立自然史博物館を訪ねて

石原孝 7

事務局より

第18回日本ウミガメ会議のご案内 9

関西うみがめプロジェクトの報告 11

「新取扱商品のご案内」

「リボンマグネットを貼ってウミガメ保護」

自宅で出来るウミガメ支援～インターネット編～

「セカンドライフ内にウミガメ協議会が登場」

「インターネット募金のご紹介」

「寄付をいただいた方」

「事務局の主な動き」

「編集後記」

本連載も10回目となりますが、「基礎講座」と題しながら最も基本的な「分類」がまだでした。本誌で別連載を担当している分類学の専門家に遠慮していたというのが本当のところ。たくさん書くとすぐボロが出るので、軽く触れる程度にします。

ウミガメとは、爬虫綱カメ目のうち海で暮らす仲間の総称です。陸ガメや淡水ガメに比べて貧弱な甲羅と、椀のような形をした四肢などの共通する特徴があります。化石種は200種ほど見つっていますが、現存種はウミガメ科の5属6種とオサガメ科の1属1種の計7種だけです。カメ目には、頸を横方向にS字型に折り畳む曲頸亜目と、縦方向に畳む潜頸亜目とよばれる2つのグループがあり、白亜紀には曲頸亜目からもウミガメが出現しましたが、現存するウミガメ科もオサガメ科も潜頸亜目に属します。検索には、背甲や腹甲の形、鱗板の数と配列などがよく用いられますが、個体変異がはげしいことに注意が必要です。各種の典型的な特徴は以下の通りです。折角ですから、これまで国内では馴染みが薄かった学名の由来についても紹介しておきましょう。

アカウミガメ (*Caretta caretta*)

英名「loggerhead」が示す通り他種に比べて著しく頭が大きいのが特徴です。その他には、背甲の幅は前方部が広く後方は狭くなったり、頂甲板と第1肋甲板が隣接するなどの特徴があります。学名は、フランス語でカメを意味する「caret」に由来します。

アオウミガメ (*Chelonia mydas*)

頭が小さく、前額板は1対(2枚)、下顎上縁には鋸歯状のギザギザがあります。属名はギリシア語でカメを意味する「Chelone」、種小名は湿気を意味する「mydos」に由来します。英名の「green」は、脂肪の色のこと、体色を指したものではありません。なお、東部太平洋に生息する少し変わったアオウミガメをBlack turtle (*Chelonia agassizii*) という独立種とする意見もありますが、詳細な研究に基づく記載が行われていないため、現段階ではまだアオウミガメの地域個体群として扱うのが妥当でしょう。

タイマイ (*Eretmochelys imbricata*)

英名「hawksbill」の通りタカのように鋭い嘴と、成長に応じて瓦のように重なる背甲の鱗板、鋸状の縁甲板が特徴です。前額板は2対(4枚)。属名は椀を意味するギリシア語の「eretmo」とカメを意味する「chelys」からなり、種小名はラテン語で「瓦状に重なった」という意味です。

ヒメウミガメ (*Lepidochelys olivacea*)

ウミガメ類では最も小さな種です。頭部は比較的大きく、数十年前までは度々アカウミガメと混同されていました。亜縁甲板の後縁には小孔が開口します。肋甲板は5対から9対。属名の「Lepido」は鱗、種小名は背甲のオリーブ色に由来します。

ケンブヒメウミガメ (*Lepidochelys kempii*)

同属のヒメウミガメに似ているものの、背甲は若干平べったく、幅が広くなり丸くなります。分布域は、カリブ海、メキシコ湾を中心とした西部北大西洋に限られます。英名の「Kemp's ridley」、種小名の「kempii」は、標本を採取したフロリダの漁師Richard Kemp氏に因みます。

ヒラタウミガメ (*Natator depressus*)

長年アオウミガメ属の1種として*Chelonia depressa*の学名が与えられ、国内ではヒラタアオウミガメと紹介されていましたが、1980年代末に独立した属に分類されました。英名「flatback」や種小名が示す通り、体高が著しく低く、背甲の縁は湾曲して陣笠のようになります。生息域は豪州北部に限られます。属名はラテン語で「遊泳者」を意味します。

オサガメ (*Dermochelys coriacea*)

ウミガメ科のウミガメとは異なり、甲羅や四肢に角質の鱗板がありません。骨板は小さく、肋骨には3-4mm程度の皮骨がモザイク状に被さり、その上を弾力性に富んだ皮膚が覆います。背甲上には7本のキール状の隆起があります。属名の「Dermo」はギリシア語で「皮膚」。種小名は「革」を意味するラテン語「corium」に由来します。英名も「leatherback (革の背中)」です。

マリントラーター列伝 「吹上浜で卵の保護をした二人」

亀崎 直樹

沖縄に関係するウミガメ屋を何人か紹介してきた。まだまだ紹介していない人も沢山いるが、この辺りで眼を鹿児島に移すことにしよう。1983年の夏だったと思う。鹿児島大学水産学部の後輩だと言乗る学生二人が、私が勤務していた黒島の八重山海中公園研究所にやってきました。秋山友宏君と渡邊泰介君である。二人は鹿児島県の西部にある吹上浜でウミガメの調査研究や保護活動をしており、全国のウミガメ屋を回って学んでいる途中に寄ってくれたのである。

二人は吹上浜でアカウミガメの卵が盗まれる現状を憂い、それにストツプをかけようと立ち上がったばかりの頃だった。二人の話をきくと、それは軟弱な自然保護活動ではなく、完全な闘争であった。卵を採取する男から襲られたり、車を壊されたりということも日常だったという。

以下は二人の学生を支援した安山登氏（故人）から聞いた話である。安山氏は吹上に住んでおり、二人に宿を提供したり、食事を供したりして、二人の活動をサポートしていた方である。

当時、吹上浜のウミガメの卵の大部分は食用に採取されていた。ウミガメの産卵期になると夜の砂浜を歩く人が何人もいたという。上陸したウミガメを見つけると「カメー」と小声で叫ぶのだぞうだ。この第一声はそのカメが産んだ卵の所有権を確立することになる。周囲の人に聞こえないと意味がないし、カメが驚いて逃げてしまふと元も子もない。声の出し方が微妙で難しかったぞうだ。カメが産卵を終えると卵を採取する。このとき、多くの人々は卵を半分くらい残すことが多いが、それがカメの保護につながる。カメの卵はゆで卵となり、多くは集

落で消費されていた。戦争中は沢山採れて、ニワトリ、牛、ヤギの餌に混ぜたりしたこともある。ニワトリは卵を沢山産みようになるとし、牛やヤギは乳を沢山出すようになったという。お菓子屋がお菓子に混ぜていることもあったぞうだ。

1980年頃になって、このウミガメの卵採取の習慣に異変が生じたという。これまでとは別の人間が卵をとるようになり、その採り方も半分、あるいは一部残すのではなく、根こそぎ採ってしまうのである。丁度、この頃、ウミガメの卵が東京で売れるようになり、その流通経路が吹上浜周辺でも確立したとも言われている。1個500円以上で売れたこともあるという。卵が食料としかならない時代は食べきれない卵を残そうとすると、金になるとわかると出来るだけ儲けたくなるのは世の常である。カメの卵は全く残されなくなり、カメ卵を巡る人々の争いも過激になってきた。秋山君と渡辺君が活動を始めた頃は、浜に卵をとる人の車が乗り付けられ、カメの卵は採られ放題だったという。浜も異常な光景だったことが予想される。

このような状況の中で、二人は上陸や産卵回数を調べ、自分でつくった標識をつけ、それと平行して卵を守る活動を開始した。地道な活動がようやくやく認められ、地元のママスコミや鹿児島県も動き、鹿児島県ウミガメ保護条例に制定したるのである。鹿児島でウミガメが保護されているのも、彼らのような戦う若者がいたことを忘れてならない。

たまには真面目な話を… 「竜宮城」

土佐遊亀会・渡 放話（わたりほうわ・またの名を溝渕幸三）

シンセンキの漢詩の中に「故意」という律詩があるが、その中に「玳瑁の梁」というヶ所がある。「たいまいのりょう」と読み、この玳瑁こそ鼈甲のことである。和奥の漢詩には亀も度々登場するのだが、本物の中国の漢詩には少ない。

作者の生きた時代は六五六年から七一四年である。私はまだお父ちゃんのお腹の中にもいないし、もちろんお父ちゃんも生まれていない時代のことである。

私は趣味の詩吟を習い始めて数年になるのだが、産卵時期になると午後十時の練習終了とともに、四万十市から土佐清水市の大岐浜まで直行することも度々だ。真夜中の覗き見、これが本当の出歯亀だろうな。

こんなことをやっているから、詩吟の会員からはいつもウミガメのことについて話を振られたりもする。今習っている「故意」のタイマイから話が始まった。でも、大抵話題になるのは竜宮城のことですなあ。

「竜宮城へは亀に乗らんと行けんらしいのう」

「そうらしいのう。オラも一度行ってみたいもんじゃ」

「けんど、海の中じゃ息も出来んろうし、苦しいうのう」

「そうよ、ちったあ息も止めたりせにゃあいくかえ。こらえたりするけん竜宮城が一層えいもんになるがよ。そりゃあ、最高ぜよ。オラは毎晩行きよるが……」

「何ね？オンチャンは毎晩行きよるかね。まさか、どこかの会長たちが行ったりするネオンのチカチカする夜の街じゃあなかろうね？

羨ましい限りじゃが、それで、竜宮城はいったいどんな所ぜ？

ワシはかなり息を止めちよけるがじゃが、大丈夫じゃろうか？」

「おまえは一体どれだけ息を止めておれりゃあや？」

「この間もレントゲン検査で怖いことしにやった。あれはみんなどうしよるろうかのう。レントゲン技師が「はい、息を大きく吸い込んで、もっと、もっと……。はい、そのまま止めて……」

まじめなワシは一生懸命息を止めたまま頑張ったがじゃが、とうとう堪え切れんなって息をしてしもうた。撮影が終わっても「はい、息をして」と言ってくれんもんじゃから、吸い込んで止めたまま彼の世へ行きよったぞ。彼の世にも竜宮城はあるろうか？

何回受けても、技師が代わっても「大きく息を吸い込んで、はい、そのまま止めて……」で、その後「息をして」とは言ってくれんものなあ。あれをまじめに守ったら絶対死んでしまうぞ。

まあ、レントゲン検査の時くらいは息を止めておれるじゃが、竜宮城へは行き着けるろうかのう。

「そればあ頑張らんでもかまんが……。オラが毎晩行けるがは嫁さんが連れて行ってくれるがよ」

「エッ？」

「オラの嫁さんの名前は亀子と言わあや」

（ずっと昔の、まだ独身の私にはわからぬ話であった。おしまい）

インターンシップを終えて

北里大学水産学部3年 詫間 峻一

インターンシップから帰ってきて数日が経つ。虚脱感と懐かしさが頭と体を包んでいる。そしてその中から、これから私がやるべきウミガメ研究へのワクワクする想い、期待が沸々とわいてきている。

私は日本ウミガメ協議会に7月30日から8月31日までお世話になった。インターンシップに参加した目的は、これから始まる卒研の対象動物としてウミガメを選んだことにある。これまではウミガメと直に接することもなかったもので、この夏休みを利用してウミガメに少しでも近づきたいと考えたのである。8月4日までは和歌山県みなべ町の千里の浜。一旦大阪の事務所に立ち寄り、その後は高知県室戸市でウミガメ漬けの日々を過ごさせていただいた。はじめてみなべ町を訪れたとき、ウミガメのことは文献の中でしか知らなかった私であったが、室戸から帰る頃にはウミガメは非常に身近な存在に変わっていた。

みなべでは上陸してきたウミガメの数や産卵の有無などの調査、卵の孵化率の調査などのお手伝いをさせていただいた。昼間は測量や孵化率の調査などを行い、日が落ちきった21時から千里の浜を歩く。慣れないうちは、βカロチンの重要さを痛感していたが、徐々にコツがつかめてくる。まず、ライトをつけずに暗闇を歩く。すると、浜につく頃には目が慣れてくる。お月様が出ている時は優しい配慮に感謝し、出ていないときはその厳しさを恨みながら歩いた。ウミガメの足跡を見落とさないように、目を凝らして、その出現を期待してドキドキしながら歩いた。あまり、私のパトロール中には上陸してくれなかったが、上陸や産卵を知らせる無線が入ると飛んでいき、間近で見るアカウミガメの産卵に胸をときめかせた。産卵中は緊張感にあふれた空気が漂い、真剣な彼らを邪魔しないように観察するだけで精一杯であった。どんなに波が高くても、波音が大きくても、そこだけは厳粛な空間が形成されていた。このようなことは、実際に観察しないと感ずることのできないものである。彼らの呼吸音や匂いなどは本の中ではわからない。いままでは本の中だけで得た知識しか持っていなかったが、ここで真の知識を得ることができた。

ほんのわずかな期間しかみなべにすることはできなかったが、その内容は非常に濃かった。特に後藤清先生のある種の使命感を持たれた活動への姿勢には、畏敬の念を抱かざるを得なかった。そのような方にお会いし、お話を聞かせていただくことができたことは、何にも代え難い貴重な経験であった。

室戸では大敷網の漁船に同乗させていただき、ウミガメの混獲状況の調査をお手伝いさせていただいた。網にかかるウミガメが漁業者の方々にはどう映っているのか、どうウミガメと付き合っているのかを勉強することができた。みなべでも室戸でも、ウミガメは住民にとって身近な存在として愛されていたことは、北国出身の私にとって、驚きでもあり、羨ましくも感じた。漁業者の方々には海のこと、ウミガメのこと、当然ながら魚のことをよく知っている。海と共に生活をしておられる人たちの持つ知識に深い尊敬を覚えた。また、室戸で行われたお祭りの手伝いやご近所づきあいを通して、社会勉強をさせていただくこともできた。

33日間という短い期間であったが、多くの経験をさせていただいた。特にウミガメの保護や研究などは、後藤先生や室戸の漁業者の方々といった地元で地道に活動しておられる皆様の活躍があってこそのものであると、実感することができた。私がこれからウミガメの研究を始めにあたり、その出発点として、そのような方々にお会いできたことは、大変有意義であったと感じている。また、実際に研究をなさっている方々から、フィールドでの調査方法や研究に対する姿勢などを、直接ご指導いただけたことはとても大きな財産となった。

最後になりましたが、フィールドや研究そのものを知らず、まったくの素人である私をご指導くださり、また生活面でもご面倒をおかけした主任研究員の松沢さん。室戸基地では東海大学の田中さんにご指導いただきました。そしてこのような機会を与えてくださった日本ウミガメ協議会の皆様に深く感謝いたします。大変お世話になりました。

スミソニアン協会 国立自然史博物館を訪ねて

石原 孝

アメリカ合衆国の首都、ワシントンD.C.にスミソニアン博物館はある。といっても、実はスミソニアン博物館という博物館は存在しない。すなわち、自然史博物館や国立航空宇宙博物館、国立動物園、国立アメリカ・インディアン博物館、各種美術館といった18の施設からなるスミソニアン協会が管理する博物館群の総称として使われているわけだ。スミソニアン協会は1846年に「知識の普及と向上」のためにイギリス人科学者ジェームス・スミソンが寄贈した資金を基に設立された世界屈指の研究機関である。これらの施設は研究施設であると同時に無料で一般公開されており、一部施設はニューヨークにも散らばっている。その中の一つ、国立自然史博物館にてジョージ・ズーグ氏（名誉動物学者）の下、2007年9月6日から20日までの2週間インターンとして研修を受けてきた。この時、いくつかの施設を見学してきたのだが、大変感銘を受けたので、この場を借りてごく一部だけでも紹介したい。

紹介するのは国立自然史博物館の1階部分である。自然史博物館はワシントンD.C.の中心部にあるナショナルモール地区に建ち、人類の期限、世界文化の発展、古代と現代の哺乳類、鳥類などが展示されていた。残念ながらウミガメの仲間である両生爬虫類の部屋は改装中、海洋生物のホールは2008年にリニューアルオープンということでどちらも見学することはできなかったが、それでも知的好奇心を満足させるには充分であった。正面入り口すぐの中央広場では肩高が4mを越すアフリカゾウが出迎えてくれた（図1）、多くの見学者が記念撮影をしていた。かなり精巧に造られた剥製で、今まさに動き出さんが如くの迫力を出迎えてくれるわけだが、ただその威厳だけで中央に鎮座しているというわけではなかった。中央広場を取り囲んで見

渡せる2階通路では、ゾウの進化を伝える展示がされており、いかにしてゾウは巨大化できたのかが化石や映像によって解りやすく紹介されている。1階それ自体は左右にそれぞれ哺乳類ホールと化石ホールとなっており、進化をテーマとして中央広場が繋がっているようで、かなり練りこまれた施設であることがここだけでも伝わってくる。



図1. 見学者を迎えるアフリカゾウの剥製

哺乳類ホールに入って上を見上げると、トラ（インド産）の剥製が襲いかかってくる（図2）



図2. 飛び掛ろうとするトラ



図3. アフリカスイギュウを襲うライオン

トラから逃げ延びることができれば、世界中からシロサイやパンダなど様々な動物が迎えてくれる。哺乳類ホールはさらにアフリカ、北アメリカ、南アメリカ、オーストラリアに分かれており、残念ながらアジアはなかった。それぞれの区画ではその地域の哺乳類を代表する剥製があり、どれも

生きたまま時間が止まったかのようにその生態を教えてくれる(図3)。こうした躍動感を生み出す剥製の質の高さは驚くべきものである。その肉付きは筋や腱まで再現されており、皮膚や毛の色は自然のまま、作成時の縫合の跡はまったく目立たない。また、夜行性の動物と昼行性の動物の目のつくりの違いなど、それぞれの展示で伝えたいことがはっきりとしており、解りやすく工夫されている。



図4. 恐竜の世界 (中生代)

次に、化石ホールに移ろう。このホールは35億年前の生物から徐々に今日に近づく形で展示がされている。中でも圧巻なのはやはり恐竜の時代であろう(図4)。まず始めにティラノサウルス・レックスとトリケラトプスが睨みあって立っている。展示スペースの中にはオープンラボもあり、時々スタッフが化石のクリーニング等をしている姿を見ることが出来る。奥へ奥へ進むほどに時代は進み、爬虫類から哺乳類の時代への転換、進化の様子や人類の誕生と他の生物との関わりなど、深く広く学ぶことができる。陸上の進化と平行して、陸上から海へ帰った生き物の適応進化の様子も展示されている。クジラやアザラシ、ジュゴンとともにウミガメの姿もあり、プロトステガとトキノケリスの化石を見ることが出来る(図5)。

うまく伝えることはできなかったが、スミソニアンには語り尽くせない驚嘆と感動、感嘆が詰まっている。自然史博物館然り、その他の施設然りである。展示を改良し続けている常に最新の博物館であり、機会をつくって行く価値のある博物館である。



図5. プロトステガ・ギガス



第18回日本ウミガメ会議
おじゃり申せ種子島会議
ロケットと鉄砲の島にも海亀が・・・

写真は種子島の長浜

開催日：2007年11月16日(金) - 18日(日)

開催場所：種子島 西之表市民会館

- 主催 日本ウミガメ協議会・種子島会議運営委員会
- 後援 環境省・国土交通省・水産庁・鹿児島県・西之表市・中種子町・南種子町
- 特別協賛 京セラ株式会社 株式会社シマンテック 株式会社M SDs
カネテツデリカフーズ 有限会社キュリネール

事前申込み（発表・参加）は締め切りましたが、ポスター発表及び参加申込みにつきましてはご相談ください。また、申込みなしの当日参加も可能です。

参加費：(会員)一般:5,000円 学生:3,000円 (非会員)一般:7,000円 学生:4,000円
※締め切り後申込みは +1,000円 ※鹿児島県民の方は参加費無料

お問い合わせは当会事務局まで Tel:072-864-0335

開催要項

今年の会議は種子島で開催されます。種子島というどうしても屋久島の陰に隠れて目立たない印象を持ちますが、ウミガメの産卵する砂浜は屋久島よりもたくさんあります。特に、中南部の中種子や南種子は砂浜だらけといっても過言ではありません。私は南種子の前の浜をみたとき、そのすばらしさに息をのみました。護岸工事がなされておらず、人の手によって毎年垣がつくられ、その垣によって砂の丘が砂浜の後背に作られているのです。私は西日本の砂浜を沢山みてきました。多くの砂浜の自然や文化が破壊されつつある中で、ここの浜のように美しい自然と人の営みが調和した砂浜は珍しく、日本屈指のものだと言えます。他にも千座の岩屋と呼ばれる海食洞窟のある南種子町浜田海岸、最も長い中種子町の長浜、西之表市の浦田海岸など、一度はみておきたい砂浜がいくつもあります。

また、種子島では伝統的にウミガメを食べる文化がありました。これに関する文献を私はまだ知らないのですが、あちらこちらでウミガメを食す文化的な行事があるとききました。これに関しても是非話をきいて、その文化の重要性を共有したいと考えています。

また、他にも色々な食べ物も見つけました。ノークイはシロザメを干したもので酔で食べます。島の人が最もよく食べる魚はモハマミとよぶブダイの仲間です。節足動物でフジツボに近いカメノテも食べます。また、島の人が日本で一番甘いと自慢する安納イモというサツマイモがあります。もちろん酒はイモ焼酎です。懇親会ではそんな料理を出していただきたいとっております。

もちろん、会議の内容も盛りだくさんです。ウミガメの歴史がある鹿児島には、沢山のウミガメ屋があります。できるだけ多くの方々に、地元の状況を報告していただきたいと思っています。また、海外からの招待講師にはオーストラリアのコリン・リンパス博士を予定しています。南北太平洋のアカウミガメの生態の比較を考えるいい機会です。もちろん、今年の日本のウミガメ産卵や漂着死体のまとめも実施します。多くの方々の参加をお待ちしております。

会長 亀崎 直樹

会議日程 (予定)

16日(金)

- 11:00 島内ウミガメ産卵地ツアー
西之表市鉄砲館発
- 11:30 島内ウミガメ産卵地ツアー
種子島空港発
- 15:00 受付開始
- 17:00 開会式
- 17:15 NHK環境イベント (参加費無料)
「太平洋のウミガメはかごんまで守る」
- 20:00 NHK環境イベント終了

17日(土)

- 8:30 受付開始
- 9:00 開会式 9:15 特別講演
コリン・リンパス博士 (オーストラリア)
- 11:00 一般講演
- 12:30 昼食・ポスター発表
- 14:30 日本のウミガメ 2007
- 17:00 集合写真撮影
- 18:00 懇親会
- 21:00 懇親会終了

18日(日)

- 8:30 受付開始
- 9:00 一般講演
- 12:00 閉会式

広告掲載のお願い

第18回日本ウミガメ会議のパンフレット(会議のスケジュールや公演内容が掲載され約500部が印刷されます)に、皆さんのお店や会社の広告を掲載していただけないでしょうか。名刺サイズ1枚が5,000円で、1ページ50,000円です。

ウミガメ会議はウミガメが産卵する場所にこだわって開催してきました。どうしても開催地は地方に限られます。これまでは、予算の半分を地元行政が、残り半分は主催である日本ウミガメ協議会が負担して開催しておりました。しかし、昨今の地方行政の財政状況はそれを許さない状況であり、種子島も例外ではありません。確かに、都会で開催すれば、予算の問題は随分解消されます。しかし、私たちウミガメを見守っている人間は、仲間が活動しているところで会議を開催し、理解しあいたいと考えているのです。

そこで、今回の会議の全予算を民間からの寄付・協賛でまかないたいと、種子島の地元の方々、日本全国のウミガメ関係者が動き始めました。皆様のご理解とご協力をお願いします。

<p>私達は自然の恵みを受けていることを忘れません。</p>  <p>株式会社 アクアート 〒450-0054 名古屋市中区正栄2-5-42 TEL 052-339-3538 FAX 052-339-3588 www.aquart.co.jp / info@aquart.co.jp</p>	<p>新しい面をのこしたい</p> 
<p>★お郡部門のトータルサポート★</p> 	<p>日本ウミガメ協議会</p> 
<p>mont-bell</p> 	<p>ZTV</p> 
<p>入道山越島 時間島への旅 ペンション マイトウゼ</p>  <p>電話 0560-85-8168 通年 健次</p>	<p>ウミガメを守ることは 誰様を守ることです</p> 

広告見本 (第17回日本ウミガメ会議のパンフレット A4版84P)

お問い合わせは
事務局の中本(また水野)まで。

関西うみがめプロジェクト ケガをしたウミガメたちの診療所を神戸に

どうして神戸空港島にウミガメが?

神戸空港島西緑地の人工海水池に7月27日にアカウミガメ3個体、8月2日にアカウミガメ1個体を放流しました。

この4個体のウミガメは、大阪湾や紀伊水道で漁師さんの網にかかったところをご連絡をいただきました。このように、時折收容されるウミガメは調査研究の大切なデータを提供してくれるので、当会では極力調査に出かけ、標識を装着し放流してきました。そのウミガメの中に、健康状態に問題があり、放流するのが心配されるカメがいます。

また、これまで当会で得られた様々な情報から、大阪湾や播磨灘に侵入したウミガメは事故死する確率が高いことが予想されました。

そこで、市民の方々の意見をきくためにリバイブうみがめ戦略会議を神戸市(2/10)と、淡路島(5/27)で開催し、この活動に対する賛同が多いことを確認しました。その結果、日本で初めての試みとして神戸市と協力し、ウミガメを一時的に收容し、健康状態を確認した上で、放流しようと活動を開始しました。

大阪湾のような船舶の航行の激しい海域に侵入したウミガメを一時的に避難させる試みは、世界で例がないと思われず、また、健康状態に問題のあるカメを收容し、治療する施設は米国などにはいくつか存在し、活動を行っています。しかし、日本では海洋性野生動物を治療する施設はまったくない状態で、今後の行政などの対応が期待される状況にあります。

8月19日及び9月30日にも一般市民の方に公開で健康診断を行いました。次回は11月4日に体重の測定を行い、健康状態を追跡し、必要に応じて血液検査を実施します。

アカウミガメは水温が20度付近を好んで回遊します。人工海水池の水温は11月頃に20度以下に低下しますので、その頃に紀伊水道の入り口周辺まで搬送し、放流の予定です。

神戸空港の広い人工海水池でウミガメを探してもらい、少しでも自然に近い状態のウミガメを観察し、ウミガメに親しみを感じていただきたいと思っています。



アクセス

電車でお越しの方は、無料送迎バスをご利用ください。

- 電車:三宮からポートライナーで神戸空港駅へ。
- 無料送迎バス:中央緑地(海上アクセスターミナル駐車場南側)から、毎時10・30・50分発。西緑地からは、毎時00・20・40分発。(西緑地からの最終は、午後5:00頃発予定。)
- 駐車場(暫定):料金 自動車 500円/1回、自動二輪 100円/1回



公開健康診断の様子

- *土・日・祝のみご覧いただくことができます。
- *後背地整備のため11月5日以降ご覧いただけなくなります。
- *バスの運行状況などは2007年9月15日現在のものです。

神戸空港のウミガメたちに会いに行こう!(10:00~17:00)

ぜひ一度は神戸空港を訪れて、野生に近い状態で優雅に泳ぐウミガメたちの姿をご覧ください。



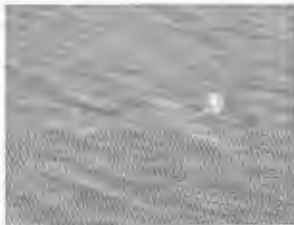
コベラ

捕獲日 7/19 收容日7/27
標識番号 53377
性不明 甲長71.6cm
体重52kg



れみ(玲海)

捕獲日 7/20 收容日7/27
標識番号 55201
性不明 甲長72.5cm
体重52kg



なぎさ(渚)

捕獲日 7/26 收容日7/27
標識番号 53376
性:オス 甲長84.8cm
体重83.8kg



みなと(港)

捕獲日 8/2 收容日8/2
標識番号 55202
性:オス 甲長88.2cm
体重107kg

新取り扱い商品のご案内



オリジナルTシャツ 1枚 2,000円(会員特別価格)



この夏、当会では保護活動や調査の際に着用するためのオリジナルTシャツを作成しました。

背面にMarine Turtle Research&Rescueの文字とウミガメを大きくプリントしたお洒落なオリジナルデザインです。

※3枚以上まとめてご購入いただければ送料は無料とさせていただきます。

◆サイズ：キッズL(W-43 L-61)、S(W-46 L-67)、M(W-52 L-70)、L(W-56 L-78)
※W=身幅 L=着丈



スポーツタオル 1枚 800円



協議会オリジナルグッズに、スポーツタオルが仲間入り。

イラストは、大人気のオリジナルステッカーと同じ、山路直樹さんのデザインを使用しました。

アオウミガメの横に、オリジナルフォントで書かれた「海亀」の文字がチャームポイント。手触りも使い心地も抜群！

◆サイズ 83cm×33cm 素材 綿100% (日本製)
カラー：白地に紺色

リボンマグネットを貼ってウミガメ保護

-新しい寄付スタイルのご紹介-

リボンマグネットとは？

購入すると金額の一部がチャリティ活動に充てられ、その活動を支援する証として「リボンマグネット」を車に貼るといふもので、アメリカではすでに全土に渡って広く普及している、個人参加形式のチャリティ活動です。

あなたの愛車にリボンマグネットを貼ってウミガメを守る活動に是非、ご参加下さい。

同様に、モバイルグッズに貼って海を守る活動支援に参加する、リボンステッカーも販売中です。

リボンマグネット ホヌシリーズは、売上の一部を当会に、リボンステッカーは売上の一部を「サーフライダーファウンデーションジャパン」「日本ウミガメ協議会」の2団体へ均等に寄付されます。



リボンマグネットは専用ホームページ
(<http://msdsmall.com/>)で購入いただける他、
各種取扱店でご購入いただけます。

*当会では販売していませんのでご注意ください

リボンマグネット 各種
ホヌシリーズ HONU (ピンク/ホワイト、
ピンク/スカイ、グリーン、ブルー、イエロー)

L-size 10cm×20cm 1,785円
S-size 5cm×10cm 840円

リボンステッカー 各種
ALOHA HONU (ピンク、イエロー、グリーン)
SAVE THE OCEAN (ブルー)
CLEAN OCEAN (オレンジ)

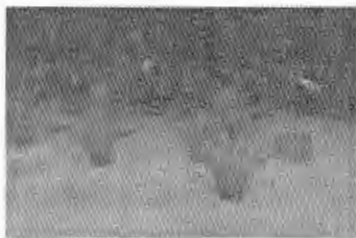
横2.4cm×縦4.8cm 380円

リボンマグネットの詳細は HP (<http://www.ribbonmagnet.jp/index.html>) をご覧下さい
米国MagnetAmerica社リボンマグネット正規代理店 M's DS のHPは<http://www.msdsgrp.com/>です。

自宅で出来るウミガメ支援

～インターネット編～

セカンドライフ内にウミガメ協議会が登場



セカンドライフって？

セカンドライフ(SecondLife)とは、世界中の人が参加できるオンラインゲームで多くのプレイヤーがひとつの世界に集まって生活するインターネット上の空間です。この世界では、アバターと呼ばれる自分の分身を操作して活動することができます。セカンドライフ内では、専用の通貨L\$リンデンドル(現金と交換できる)を使って様々なショッピングを行うことができます。

当会は、株式会社インターリンクの全面的なバックアップで、3D仮想世界セカンドライフ内『八国山(はちこくやま)アイランド』に、2007年6月28日(木)、特設店舗をオープンいたしました。

当会の特設店舗では、当会の活動紹介や、映像の公開の他、アバターがダイビンググッズを装着し、海中でたくさんのウミガメと遊んだり、写真を撮影するなど、3D仮想世界ならではの体験が可能となります。また、アバターの肩に乗るウミガメのぬいぐるみや、アバターの後をついてくるウミガメなど、様々なグッズをチャリティー目的で販売いたします。グッズ販売による収益は全額、当会に全額寄付され、活動運営資金に充てられます。

セカンドライフ日本語版HP(<http://jp.secondlife.com/>)

八国山アイランド(<http://www.hachikokuyama.net/>)

株式会社インターリンク(<http://www.interlink.or.jp/>)

インターネット募金のご紹介

当会では、YAHOO! JAPANのホームページ上から、「ウミガメ類を保全するための調査支援」、「産卵・発生環境(砂浜)保全プロジェクト」をテーマにワンクリック募金のお願いをしています。



YAHOO! JAPAN ワンクリック募金とは？

YAHOO! JAPANのホームページ上から行えるインターネット募金のことで、募金のお礼に当会の提供する壁紙をダウンロードしていただけます。(金額は500円～100,000円(税込)の範囲で寄付者が指定できます。)購入金額に含まれる消費税は別途納税し、その消費税と同額をYahoo! JAPANが補填(ほてん)した後に団体へ送金いたします。

*募金をするには、Yahoo! JAPAN ID(無料)でのログインと、Yahoo!ウォレットへの登録(無料)が必要です。

ウミガメ類を保全するための調査支援

日本国内では5種のウミガメ類が見られます。そのうち最も一般的な種は本州や四国・九州・沖縄で産卵するアカウミガメです。しかし、北太平洋のアカウミガメが産卵をしているのは日本の砂浜しかなく、日本で産卵するアカウミガメがいなくなるのは、北太平洋からアカウミガメがいなくなることを意味しています。

このアカウミガメをはじめとしたウミガメ類が2004年には316頭、2005年には495頭も海岸線へ死んで漂着しています。こうしたウミガメ類を保全していくためには、産卵をするウミガメがどれほどいるのか、死んだウミガメがどれほどいるのかなど、その現状や生態を知ることが必要です。

当会ではそうしたウミガメ類に関する情報を広く集め、保全に役立てています。

お預かりした募金は、以下のようなウミガメの保護・調査にかかる費用に充てられます。

※産卵頭数の調査・研究

現地までの交通費や必要な資材費。また、全国の協力団体・個人へ貸し出す専用ノギスや標識用器材の購入などに充てられます。

※漂着個体の保護・調査

漂着情報を集めるための携帯電話用ステッカーの作成費や配布にかかる費用、漂着現場までの交通費・調査経費や保護個体の飼育にかかる費用に充てられます。

※漁網に誤ってかかったウミガメの調査・保護

混雑されたウミガメの種や大きさなどを記録するための経費と共に、保護が必要ときに許可を取った上で、放流できるようになるまで治療するための費用に充てられます。

インターネット募金トップ(<http://volunteer.yahoo.co.jp/donation/>)

環境の保全(<http://volunteer.yahoo.co.jp/bin/dsearch?g=5&b=1&z=c>)

ウミガメ類を保全するための調査支援

(<http://volunteer.yahoo.co.jp/donation/detail/177001/>)

ご寄付を頂いた方々

㈱大伸社 藤中功 床田真美 Charles Stewart シマンテック㈱ 松下陽子
串本海中公園センター 小林茂夫 佐藤克文 大地昭 太田英利 片山敦子
田端重夫 通事健次 関真由美 勝木和恵 内田保 水口充則 堀田耕平 坂本亘
塚田津恵子 米田耕作 須之部友基 前田直美 柴山信行 宗像美穂 山田輝一
野田博之 近藤康男 浅海美幸 福元清 端田宏子 照本善造 栄東高校2年14組
蔭山純由 岡本州広 岡本嘉乃 Longhorn Emma 堺温哉 日高安義
ハワイアンダイニングホヌーズ 小林健一 野村直人 白潟勲 井澤信二 三枝勇
堂馬梓 ペイン留美 ㈱M'sDS ヤマトカナ 川上玲子 戸谷幸代 コバヤシサチコ
茅ヶ崎産婦人科 南淡路ロイヤルホテル 道の駅日和佐 塚田健雄 大久保満
吉川一也 料亭花月 Hazel Pelling ㈱インターリンク 通事太一郎 西隆昭
谷口克之 ㈱アクアート ㈱ライフ ヤフー㈱

(順不同・敬称略) 2007年3月1日～2007年9月30日まで

事務局の主な動き

(2007年3月～2007年9月末まで)

- 3月10日 九州ウミガメ会議に参加
- 3月24日 観光光客船「コンチェルト」にて講演
- 3月24日 徳島県美波町日和佐にて、
第1回うみがめ復活会議の開催
- 4月07日 沖縄亀人会回
- 4月21日 「表浜シンポジウム」にて基調講演
「ウミガメに対する脅威と対策」
- 4月28-29日 Feel EARTH 2007 in 御前崎に参加
- 5月05日 観光光客船「コンチェルト」にて講演
- 5月06日 メリケンフェスタに出店
- 5月13日 東京都江東区えこっくるにて講演
- 5月26日 平成19年度身近な自然一斉調査 第一回講座
「アカウミガメ上陸・産卵調査講習会」に参加
- 5月27日 第2回 リバイブうみがめ戦略会議 開催
- 6月04日 和歌山環境月間記念講演会に参加
- 6月05日 講演「ウミガメの不思議な生き方とそのその保護」
- 7月06、08日 イルカコンサート参加
- 7月09日 IUCNミーティングに参加
- 7月14-16日 カメハメハ王国との共催で相良自然環境塾を開催
- 7月22日 KITTの会主催の蒲生田ウミガメスクールに参加
- 7月23日 日和佐ウミガメ博物館カレッタ主催
ウミガメサマースクールにて講演
- 7月27日 神戸空港にウミガメ放流
- 8月01日 サイエンスカフェにて講演
- 8月14-16日 国際ウミガメ学会理事会に参加
- 8月19日 神戸空港島にて、ウミガメ学習会 開催
- 8月31日 黒島にてイシサンゴ類の白化状況の調査
- 9月01日 黒島でウミガメ飼育プール(岡本様御提供)の安全祈願と落成祝い
- 9月06-20日 米国スミソニアン協会国立自然史博物館にて研修
- 9月10日 南あわじ市にてアカウミガメのふ化の確認
- 9月16日 神戸空港の空の日イベントにて活動紹介
- 9月19日 福井県でアオウミガメに衛星発信機を装着し放流
- 9月22日 徳島県アカウミガメ上陸産卵調査報告会の開催
- 9月30日 神戸空港ラグーンにおいてウミガメ健康診断を実施

STSmembers募集中

STS(SeaTurtleSupport)membersは、ウミガメと共に生きていける自然、環境について考え、その研究・保護活動に協力する人々の集まりです。

日本ウミガメ協議会では、当会をサポートしてくださるSTSmembersを随時募集しております。皆様のお知り合いで、自然が好きな方、海が大好きな方、ウミガメに興味をお持ちの方がおられましたら、是非、入会をお誘い下さい。

携帯電話用ウミガメステッカーの配布

当会では、少しでも多くのウミガメの情報を得るために、当会の連絡先がプリントされた携帯電話用ウミガメステッカーを配布しています。

もし、海岸や海でウミガメの産卵や死体を見つけた時は、これを見て協議会にお電話下さい。

ステッカーを貼ってくださる方、お友達に配っていただける方は、必要枚数をご記入の上、80円切手を貼った返信用封筒をお送り下さい。

皆様のご協力をお願いします。



携帯用ステッカー

編集後記

前号まで編集を担当していた仲村が一身上の都合より退職致しました。今号より石原が担当致します。皆様より叱咤激励頂きながら、より良い機関誌にしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

ところで、今年も季節外れの桜が咲いているそうです。これは異常気象なのかどうかわかりませんが、そうだとすれば異常気象であるのが例年並、という気さえしてきますね。しかし自然は変化するもの、毎年変わって当たり前というのも事実です。要はその程度がどれほどのものか、それに対応できるのか、ということなのでしょう。今年台風の数も少なかったのですが、大型の台風がいくつかウミガメシーズンに襲来しました。これらの台風で産卵巣が水没し、侵食の進行した産卵地の話も聞きました。それでなくとも今年の産卵巣数は去年に引き続き伸び悩んでいるようです。混獲されるアカウミガメの数も今年は減りました。個人的には全体的に減っているのではないかと心配しています。詳しい情報と検討は11月16日から鹿児島県種子島で行われる「第18回日本ウミガメ会議」で話し合われます。私は種子島に行ったことはまだありませんが、良い場所だと聞いています。会場で皆様にお会いできることを楽しみにしています。

編集担当:石原 孝

マリンタートル (日本ウミガメ協議会機関誌)

発行日 2007年10月20日

発行 日本ウミガメ協議会

〒573-0163 大阪府枚方市長尾元町5-17-18-302

電話:072-864-0335

FAX:072-864-0535

URL <http://www.umigame.org> E-mail info@umigame.org